

(I) 館長就任について

大 森 孝

此の度、図書館建設に御尽力なされた町田前館長の後を受けまして、私大森が去る九月より館長職を命じられ勤務しております。

長い間、教務課長の職に就いて居りまして、図書館の運営等につきましましては、経験が有りませんので専心勉強致し度いと考えております。何分宜しくお願い申し上げます。

館も建設期を終り、今は館員一同内部の書籍集収、整理等の業務に励んでおります。特に、故坂本先生御寄贈の約八千五百冊に及ぶ書籍、其の中でも、古い和書の整理に没頭しております。

其の整理も軌道に乗り順調に進んでおります。尚、以前の図書館規定に改正、補筆等を加え、一層充実したものを作りました。更に利用規定を作りました。館の運営を充実させる為、運営委員会を設け、学長、校長等数名の先生方に委員を委嘱し、第一回の運営委員会を去る十二月十五日に開き、今後の館の運営方針につき基本的事項を審議していただきました。又、図書

選定委員会を設けました。その委員には運営委員の先生方に加えて、広く各教科の先生方に入っていたいただき、購入する書籍の類別等について審議していただく事になっております。尚、近代的図書館に適応するよう情報機器の購入も考えております。御本山の御支援をいただきながら、我々館員一同専心努める決意であります。是非、同窓生各位、及び有縁の方々の御支援を心より御願ひ申し上げる次第です。

(II) ◇ 図書館だより — その一 —

図書館は去る昭和六十三年十一月二十九日に竣工落成式を終え、開館して満一年数カ月を迎えました。平成元年五月二十六日には建物が社団法人東京都建築士事務所協会(井上雄治会長)より『東京建築賞』の「優秀賞」の選に入り、関係者一同喜んでおります。館の職員は、より一層内容の充実に精進努力して参る所存で御座いますので御協力の程を宜敷お願い申し上げます。

今年も図書館本運動に御協力下されました同窓生の各聖はじめ、有縁の方々より御高配と御厚志を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

平成元年度図書寄贈者御芳名

- 1 身延山久遠寺殿 「昭和定本日蓮聖人遺文」全四巻二セツト、他六冊。

- 2 東洋大学殿 「井上円了の学理思想」他一冊。

- 3 鑄創造殿 「こわがりすぎでいませんかー放射線」二冊。
- 4 中央学術研究所殿 「詩の本質を求めて」一冊。
- 5 町田忠司殿 「放射性廃棄物の焼却処理における排ガス浄化装置に関する実験的研究」一冊。
- 6 和同ドクターズグループ殿 「成績が上がる治療システムの公開」他一冊。
- 7 戸田教進殿 「三十番神法華祈禱秘抄卷四」一冊。
- 8 児島鍊戒殿 「旧約新約聖書大事典」他十冊。
- 9 本門法華宗宗学院殿 「法華経略要品講義」上・下、他十一冊。
- 10 松本光華殿 「民話風法華経童話その6 菓草喻品第五 恵みの雨に草も木も」十冊。他「その7・8・9」三十冊。
- 11 川崎大師平間寺殿 「仏教文化論集5」一冊。
- 12 鶴蒔婿夫殿 「歪められた原発」一冊。
- 13 増田宇広殿 「宗派仏教を超えて」一冊。
- 14 望月海淑殿 「宗教の心理学」他二五七冊。
- 15 増田光照殿 「高麗大蔵経」(複製本)全四十五巻、二セツト。
- 16 立正大学図書館殿 「立正大学図書館所蔵明代南蔵目録」他二冊。
- 17 尚学図書殿 「国語大辞典」他一冊。
- 18 日蓮宗新聞社殿 「新編日蓮宗年表」二部、他二冊。
- 19 国際仏教学研究所殿 「A CATALOGUE OF THE

UNITED STATES LIBRARY OF CONGRESS COLLECTION OF TIBETAN LITERATURE IN MICROFICHE PART II 一冊。

- 20 武内観良殿 「久遠のいのち」二冊。
- 21 渡辺信勝殿 「城山第一号前方後円墳」他二冊。
- 22 伊藤佳通殿 「続群書類従」他計一六八冊。
- 23 三室戸学園 「三室戸学園五十年の歩み」一冊。
- 24 大森 孝殿 「言語小論」三冊。
- 25 専修大学殿 「専修大学一〇〇年」一冊。
- 26 製粉振興会殿 「小麦粉の話」一冊。
- 27 小野文珠殿 「法華経の詩」一冊。
- 28 日蓮宗秋田県教化センター殿 「遙かなる道」一冊。
- 29 山梨医科大学殿 「開学十周年記念誌」一冊。
- 30 山梨県企画管理局殿 「山梨県新総合福祉計画第一次実施計画事業評価書」他一冊。
- 31 日本大学殿 「後生畏るべし」他一冊。
- 32 武蔵工業大学殿 「武蔵工業大学創立60周年記念」一冊。
- 33 三菱広報委員会殿 「海のシルクロードを求めて」一冊。
- 34 山陽学園短期大学殿 「二十年史山陽学園短期大学」一冊。
- 35 英鳴学園殿 「遠藤降吉伝」一冊。
- 36 大妻学院殿 「大妻学院八十年史」一冊。
- 37 東京電力株式会社殿 「家庭の電気工学」三冊。
- 38 現代創造社殿 「守破離の経営」一冊。

- 39 三井広報委員会事務局殿 「三井グループ'89」一冊。
 40 齊藤日乘殿 「法悦」三冊。
 41 平原要俊殿 「法華」一四七冊、他二〇〇冊。
 42 塚本東壁殿 「塚本清於庵句集」一冊。
 43 浅草寺殿 「浅草寺仏教文化講座」一冊。
 44 田中香浦殿 「田中智学先生の思い出」一冊。
 45 神奈川県立金沢文庫殿 「徒然草の絵巻と版本」一冊。
 46 三友雅夫殿 「社会移動の研究」他五〇〇冊。
 47 本門社殿 「説教(クリ弁)全集三巻」一冊。
 48 町田是正殿 「ケインズ」他六冊。
 49 日華仏教文化交流協会殿 「台湾開教の歩み」一冊。
 50 春日居町教育委員会殿 「国府遺跡」一冊。
 51 飯田昭太郎殿 「REASON and EMPTINESS A Study in Logic and Mysticism By Shotaro Itada」一冊。
 52 渡部英昭殿 「郷土誌きぎょうの里」一冊。
 53 山梨県立図書館殿 「山梨県立図書館所蔵郷土資料目録」一冊。
 54 山梨英和学院殿 「山梨英和一〇〇年」二冊。
 55 上田本昌殿 「挫折をこえて日蓮」一冊。
 56 東洋大学殿 「東洋大学百年史資料編I下」一冊。
 57 庵谷行亨殿 「日蓮聖人教学の基礎」I・II他一三〇冊。
 58 谷川寛徳殿 「世界の映画音楽1〜15」他七十六冊。
 59 高杉 良殿 「炎の経営者」上下他二冊。

- 60 上岡喜久雄殿 「国訳一切経」等九九冊。
 61 田中義正殿 「定本柳田国男集第二十五卷」一冊。
 62 中瀬正良殿 「中瀬七造伝」一冊。
 63 都留文科大學殿 「都留文科大學記念誌」一冊。
 64 浦野正春殿 「求聞持聴明法秘伝」一冊。
 65 北原優美殿 「白馬岳の自然観察」十冊。
 66 山梨県立美術館殿 「山梨県立美術館蔵品総目録II一九八四〜一九八八」一冊。
 (平成二年一月末日現在、受け入れ順にて掲載。)
- ◇図書館だより ―その二―
- 上田元館長が提唱された一人一冊献本運動は町田前館長、大森館長へと引き続き現在も展開され、その成果も多いに実りはじめております。去る平成元年十月二十六日には三年に一度開催される全国同窓会総会の席上で献本運動等に功績があった方々の表彰がありましたので御報告いたします。

- 1 伊藤佳通殿 静岡県
 2 岩田日成殿 山梨県
 3 大石要英殿 静岡県
 4 上岡喜久雄殿 静岡県
 5 児島鍊戒殿 徳島県
 6 故新川日見殿 東京都
 7 谷川寛徳殿 富山県

8 若杉見龍殿 静岡県

三十万円相当以上の献本を賜わりまして、本当に有難度う御座いました。御芳名は五十音順にて掲載しました。また、次の方々は図書館建設資金として百万円以上の御寄付を賜わりましたので感謝状(後期の分)を贈呈いたしました。

1 御鏡謙殿 (富山県)

2 中村正彦殿 (福岡県)

3 灘上忠教殿 (神奈川県)

◇ 図書館だより — その三 —

図書館では、同窓生諸兄、有縁関係者、図書館建設資金御寄付者、献本御協力者、研究者等の利用の便を計るために閲覧証を一階のカウンターにて用意しておりますので、御来館の際には館員にどうかお尋ね下さい。

現在館員一同は、坂本文庫(約八五〇〇冊)の整理作業を中心に仕事をしております。その内容の一端を紹介しますと、和漢書の数が合計で四九三五冊あり、分野別には多い方から見ると天台の八六〇冊、真言密教関係の七五八冊、華嚴の六〇六冊、法相系の四五八冊等になり、更にこれらを系統たてて、シリーズごとに帙に入れて保存して研究者の利用に供したいと願っております。それで、すべての本を一冊一冊点検して見ると虫くいがかなりあり、また和綴のいたみ等もあって、これらを完全な形で修復して参りたく、その準備にとりかかっております。

す。虫くいが広がらない為に先に燻蒸し、帙の製作や本文の裏打、和綴等は業界最大手のナカバヤシに委託し、作業完了には数年の年月を要します。洋装本は二八五二冊あって二四二〇冊はカードも取り閲覧利用ができております。残りの約四〇〇冊と洋書一六一冊は平成二年度中には利用可能です。雑誌は一五三冊あって今後、順次に作業して参ります。近い内に坂本文庫の和装本、洋装本等を含めまして冊子体の目録を作製し研究者の便に答えたかと思っております。

その他、館員は通常業務及び献本の整理、既存図書にバーコード等を付け、新たにカード作製等の仕事に追われております。今後共よろしく関係各位の御援助と御協力を切にお願い申し上げます。(桑名)

Ⅲ 研究活動報告

(1) 日本印度学仏教学会

第四十回学術大会は、平成元年九月十五日(金)、十六日(土)の両日にわたり、当番校龍谷大学(京都市)の主催で同大学深草校舎を会場に開催された。本学からの発表者とテーマは左の如くである。

金網集の検討——「真言宗見聞」(本・別両巻)について——

中條 晁 秀

(2) 日本宗教学会

日本宗教学会第四十八回学術大会は、九月十四日(木)と十六日(土)にかけて、独協大学(草加市)において開催された。本学からの発表者とテーマは左の通りである。

宗教学と「現代社会」―現代に生きる日蓮聖人の教え―

渡辺寛勝

(3) 日本仏教学会

平成元年度学術大会は「仏教の生命観」を共同研究課題として、十月七日(土)・八日(日)の両日にわたり、駒沢大学(東京都)を会場にして開催された。本学からは奥野本洋氏が発表を行なった。

日蓮聖人の生命観

奥野本洋

(4) 日蓮宗教学研究発表大会

第四十二回日蓮宗教学研究発表大会は、当番校となった本学を会場として開催された。その折のプログラムは左の通りである。

第四十二回日蓮宗教学研究発表大会御案内

謹啓 時下、益々御清祥の段大慶に存じ上げます。

さて、恒例の如く、日蓮宗務院・立正大学・身延山短期大学共同主催のもとに、第四十二回日蓮宗教学研究発表大会を左記の通り開催致すこととなりましたので公私御多忙とは存じますが、御参集下さいますよう、御案内申し上げます。

平成元年九月十二日

日蓮宗教学研究発表大会会長 宮崎英修

各位

一、日時 平成元年十月二十七日(金)

十月二十八日(土)

一、会場 身延山短期大学(図書館五階ホール)

大会役員

総裁	日蓮宗管長	岩間日勇
顧問	日蓮宗務総長	渋谷直城
顧問	身延山短期大学学園理事長	望月一靖
顧問	立正大学学長	大澤正男
会長	身延山短期大学学長	宮崎英修
副会長	日蓮宗教務部長	頂岳龍乘
副会長	立正大学仏教学部長	三友健容
副会長	立正大学日蓮宗研究所所長	浅井圓道
準備委員長	身延山短期大学仏教文化研究所主任	中條暁秀

プログラム

十月二十七日(金) 午前の部(午前九時より)

一、開会式(本館五階講堂)

一、法味言上

一、挨拶

一、挨拶

岩間日勇	渋谷直城	大澤正男
------	------	------

一、挨拶
二、授賞式

一、研究発表

日蓮聖人における救い

日蓮聖人の国土観について

近代日蓮宗の動向(二)——縮刷遺文編纂についての

一考察——

本迹論の一考察

日蓮聖人の時間論

日蓮聖人遺文における説話について

分身の変遷について

『瑜迦論』所説の構造解明(一)

兜跋毘沙門天像の背景

英訳法華経の改訂について

(記念撮影)

一、研究発表 午後の部(午後一時三十分より)

日蓮聖人の浄土観について

日蓮聖人の題目論

日蓮聖人にみられる仏法王法観

「事」の法門への出発点

日蓮聖人の曼荼羅本尊授与について

優陀那和上の『首題要義』についての一考察

浅井 圓道
宮崎 英修

町田 英昭
野口 真澄

安中 尚史
三吉 広明

平井 良男
竜門 義通

池上 和夫
清水 海隆

高橋 堯昭
村野 宣忠

笹津 海道
丸茂 龍正

吉木 英雄
小澤 恵修

寺尾 英智

寺院制度についての一考察

『毒箭』にみる思想と信仰

不可思議阿僧祇劫の仏について

寺泊御書、観心本尊抄、伝法御本尊との相関

中世日蓮教団寺院における経済活動

池上永寿院開基戸川達安一門の研究と不受不施事件

法華経——この不思議な經典——

近世前期河内三田家の法華信仰について

十月二十八日(土)

一、研究発表 午前の部(午前九時より)

法華経における二乗について(二)

法華論における法華七喻について(二)

元暁の法華経観について

カンバラにおけるアローカマールラについて

アティーシャの中観解釈——マディヤマカ・ウパデー

シャを中心——

『日本靈異記』における法華経信仰について

江戸城大奥女性の法華信仰

三原 正資
浜島 典彦
小野 文珠

金 森 立承

早 瀬 公人
糸 久 宝賢

内 藤 潮洲
芹 沢 寛哉

冠 賢 一

則 武 英敏
高 橋 博明

福 士 慈稔

馬 渡 竜彦

望 月 海慈

高 佐 宜長

望 月 真澄

日蓮教学における「孝養」の宗教的意義 原 慎定
佐前教学についての一考 関 戸 堯海

本妙日臨律師の教学について―主として撰折問題―

桑 名 貫 正

上総七里法華地域における十ヶ村題目講について

岩 田 諦 静

日蓮聖人における教観について

庵 谷 行 亨

一、閉会の辞

◎発表時間十五分、質問五分

◎懇親会 十月二十七日(金)午後五時三十分より本館五階講堂にて。会費二千元

◎記念撮影費 千円

◎昼食は控室(五階講堂)に用意致します。

(5) 仏教文化講座

本年度の「仏教文化講座」(公開)は、一月二十日(土)開催された。講師はティッサ・ラジャパティラナ先生(国立オーストラリア大学、サウス・アンド・ウェストアジアセンター)演題は『スリランカ仏教の現状について』であった。なお通訳は池上和夫先生が担当された。

(6) 学内研究会

本年度の学内研究会の発表者とテーマは左の通りであった。

◇六月二十九日(木)午後三時

AV・中における Karmān の使用例について

池 上 和 夫

◇十月五日(木)午後三時

日蓮聖人の生命観

奥 野 本 洋

◇一月二十三日(火)午後三時

金網集の一考察

中 條 暁 秀

(7) 科学研究費補助金について

文部省の平成元年度科学研究費補助金が、四月二十七日交付の内示があり、六月二十日交付の決定がなされた。

研究課題

金網集の研究

研究代表者

教 授 宮 崎 英 修

研究分担者

教 授 中 條 暁 秀
助 教 授 林 是 賢

(IV) 平成元年度卒業論文一覧

近世における不受不施制の展開

日蓮聖人の法華経観

日蓮聖人の上行自覚に関する一考察

日蓮聖人に於ける法華経色説

原 浩 一

蘆 田 恵 教

今 泉 智 薬

白 井 正 規

久遠成院日親上人について

地涌の菩薩の一考察

日蓮聖人の唱題成仏について

不受不施に対する日奥の思想

台密と東密——最澄と空海の不仲考察——

日蓮聖人の祈り

日蓮聖人の孝道

日蓮聖人の身延での御生活について（供養品々について）

日蓮聖人の末法観

末法総鎮守七面大明神についての研究

京都町衆の法華信仰

日唱上人身延除歴事件について

日蓮聖人の法難について——四大法難を中心として——

法華経の久遠実成について——三益論を中心として——

三大誓願について

観世音菩薩の慈悲について

岡 良善

河崎 俊宏

功刀 一真

小平 晋慈

後藤 顕精

佐々木 章友

佐々木 弥生

杉山 昭人

高鍋 秀人

樽井 良次

原田 泰清

野田 晴彦

本吉 宣久

柳川 久美子

山下 竜司

尾崎 一恵

(V) ◇同窓会本部だより◇

○身延山短期大学学園同窓会全国総会の開催

同窓会規約にもとづき三年に一度の同窓会全国総会（今年は

昨年の日蓮宗教学研究発表大会の会場が一妙院日導上人の第二
百遠忌に因んで、上人ゆかりの熊本市本妙寺で行なわれたため
一年延期して四年目となりました。が平成元年十月二十六日
（木）、身延山短期大学学園を会場として左記の日程で成功裡
に行われました。

午前十一時～十二時三〇分、全国支部長会議（図書館五階会
議室）。座長小崎龍雄副会長。

十二時～十二時五〇分、一般会員受付（図書館玄関にて記
帳）。

一時～二時、物故者追悼法要を久遠寺仏殿にて厳修（大導師
望月一靖総務現下、脇導師松井大周同窓会長、岩田日成副会
長、宮崎英修学長、秋山智孝校長）。法要終了後、仏殿前にて
記念撮影。

二時～三時三〇分、同窓会総会（図書館五階会議室）に入
る。総会次第は次の通り。

司会 奥野本洋・進藤義遠両先生。

(1) 文題三唱（会長発音）、(2) 開会のごとは（岩田日成副会長）、

(3) 挨拶、会長松井大周師、学長宮崎英修先生、校長秋山智孝先
生、(4) 感謝状贈呈（望月一靖理事長より）〈図書館建設資金百万
円以上の寄付者〉御鏡講殿、灘上恵教殿、中村正彦殿。〈図書

密贈三十万円相当以上〉故新川日見殿、岩田日成殿、児島鍊戒
殿、大石要英殿、谷川寛徳殿、若杉見龍殿、伊藤佳通殿、上岡
喜久雄殿。 (5) 永年勲統教職員表彰（望月一靖理事長より、三十

年表彰大森孝先生)。 (6) 協議事項、(1) 座長選出、小崎龍雄同窓会副会長が選出され、座長より新しい庶務、会計幹事が紹介された。両幹事は共に学園の教員である。庶務に桑名貞正先生、会計は望月海英先生。 (2) 庶務報告。 (3) 会計報告。 (4) 監査報告。 (5) 役員選出、役員は全員再任された。監事には清水本成師の他に新たに平原要俊師と井出英省師が選出された。 (6) 各支部長、現況報告。 (7) その他。 (7) 閉会のことば (中村正彦副会長)。 (8) 玄題三唱 (会長発音)。

引き続いて同窓会懇親パーティー (三時~四時三〇分) を身延山短期大学五階大講堂にて催された。

司会 林是誓先生、望月泰幹主事

(1) 開会のことば (小崎龍雄副会長)、(2) 挨拶 (松井大周会長)、林先生の巧なる司会進行にて出席の殆んどの方からスピーチを引きだし、予定時間を超えて同窓生各位は旧交を暖め和やかに時を過ごし、学園発展の為に新なる尽力を誓い会って、万歳三唱を山梨県支部長望月道悦師首頭にて行なった。名残り尽きない盛りあがった懇親パーティーも大石要英副会長の、次の同窓大会にも全員の出席と、より多くの同窓生の参加を求めて閉会のことばにて閉じられた。

(文責 桑名貞正)